

6 公立置賜川西診療所

1 訪問の状況

①日 時：平成19年8月9日（木）13：30～15：15

②対応者：佐藤信一郎所長（68歳）

（県立中央病院副院長、最上保健所長（2年半）定年後現職、山形市在住）

③訪問者：山形大学大学院医学系研究科医療政策学講座 佐藤准教授、同公衆衛生学講座院生 松浪
山形県健康福祉企画課 竹田主事

2 基本的事項

	項目	
1	診療所の位置	川西町大字上小松2918番地2 役場・消防署約600m、羽前小松駅約1km、小松小学校約900m
2	地域の状況（人口、高齢化率、高齢単身者率、受診者の平均年齢人口等）	・人口：18,561人（男9,056人女9,502人） （H19・3・31現在の住民基本台帳） ・高齢化率：29.5%、高齢単身者率 6.6%
3	診療科（実際に診ている診療科・主な疾病等）	・診療科：内科（胃腸科含む）、外科、整形外科 ・主な疾病等：生活習慣病（高血圧症・糖尿病・高脂血症）・心疾患・C型肝炎等
4	診療日時	8時30分～17時00分 （土曜日、日曜日、祝日、年末年始休暇を除く）
5	スタッフの状況（異動状況、充足状況、派遣元（社）地域医療支援機構・へき地医療支援機構等）	・医師：所長、置賜総合病院からの派遣医師：内科週3回、外科週2回、山形大学附属病院からの派遣医師：内科（胃腸科含む）週2回及び月2回、整形外科週1回 ・医療技術部門：薬剤師1名、放射線技師（嘱託職員）1名、臨床検査技師1名、理学療法士月6回程度の派遣を受けている。 ・看護部：4名 ・事務部：2名、臨時職員1名
6	運営方式（経営状況）	・運営母体は一部事務組合「置賜広域病院組合」（構成団体：山形県、長井市、南陽市、川西町、飯豊町） ・経営母体は川西町（構成団体）であり、医業収支マイナス分については、川西町から負担金として診療所会計に補填
7	主な診療機器	・超音波診断装置、X線装置（CT・透視・断層）、内視鏡
8	外来患者数（1日）	・平成18年度の平均で93.2人（そよ風の森及び訪問診察含む、除けば85人程度）であるが、今年度に入っても減少傾向となっている。
9	通院手段	・家族送迎、自家用車、タクシー、徒歩、デマンド交通等
10	周辺の医療機関	・医療法人社団緑愛会川西湖山病院：養療型病床群併設病院（120床）（内科、整形外科）、介護老人保健施設かがやきの丘（100床）併設 ・斎藤内科循環器科クリニック・柄沢医院（内科・胃腸科）・総合コロニー希望が丘 ・公立置賜総合病院まで約8km、三友堂病院（米沢市）まで約12km、米沢市立病院まで約16km
11	周辺の福祉施設	・特老（通所）：そよ風の森（80名） ・在宅介護支援センター：そよ風の森・かがやきの丘 ・知的障害者授産施設：総合コロニー（200名）
12	救急体制、夜間・時間外の診療体制	・時間外等における緊急な診察については、救命救急センターを利用するよう患者さんに説明をしている。
13	IT等の導入状況（電子カルテ・遠隔医療）	○置賜広域病院組合として、10月1日からの電子カルテ稼働に向けて進められている。

3 地域医療（へき地医療）の現状と課題（総論）

- ・総合病院が急性期病院としての機能を担当し、他の医療機関などに対し、生活習慣病患者等の誘導を図っているが、総合病院外来患者の20%を占めている川西町の外来患者の適正誘導を推進することも、医療連携の基盤を作り上げていくうえで重要であり、診療所の常勤医師の配置などの体制整備が急務となっている。

4 他の機関との連携状況

①医療機関との連携（前方支援、後方支援、医療機器、紹介率、逆紹介率、地域連携パス）

- ・平成18年度における紹介率：公立置賜川西診療所から公立置賜総合病院 218件
- ・平成18年度における逆紹介率：公立置賜総合病院から公立置賜川西診療所 269件

②老人保健施設、特別養護老人ホーム等介護・福祉施設との連携（老老介護等の状況）

5 在宅医療、在宅療養支援診療所、療養通所介護、看取りなどの状況

- ・現在の訪問診察患者さんは、実患者で7名程度、また、往診患者さんは、月当たり4名程度となっている。また、看取りについては、平日の所長勤務時間帯であれば所長が行う。

6 その他

①新医療計画：9つの主要な事業（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、小児医療、救急医療、周産期医療、災害医療、へき地医療）

②代替医、集約化、医師確保について

- ・診療所医師として平成17年4月までは、2名体制であったが、異動により同年5月からは所長1名となり、公立置賜総合病院及び山大附属病院からの派遣を受けているところである。

派遣状況は、開所当時（H12年11月）の診療体制は16コマ（診療所9、総合病院5、山大附属病院2）であったが、現在（H19年4月）では、11コマ+月4コマ（診療所4+月2、総合病院4、山大附属病院3+月2）と減少してきているところである。

③診療報酬改定に対する意見

- ・特に生活習慣病の点数が下がったことにより、収入が減となった。

④その他（当直等の勤務環境・労働条件他）

- ・平日の外来診療であるので、当直等はない。
- ・公立置賜病院設立当時の説明では、人事は置賜公立病院本部の医療監が行うこと、週4日勤務ということであったが、医師不足の現状から、医師の手配は各病院で行うのが原則となってきたり、常勤医師の確保ができないため、隔週週5日勤務となっている。
- ・買い物等で公立置賜総合病院方面へ行く機会が少ないことから、距離的には近いが、精神的に遠く感じており、米沢方面の病院の方が行きやすい様子である。

患者さんへのインタビュー 1

1 対応者

- ①性別 女 ②年齢 歳 ③住所(地域名) : 玉庭
④家族構成(单身等) 1人暮らし

2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : 内科など 膝、血圧の薬を処方
②受診頻度 : 月1回
③交通手段(状況) 近所に嫁いだ娘が送迎
④2次医療機関 : 患者自身は受診したことはないが、公立置賜総合病院ではないか。
⑤時間外等の対応 : 救急車で公立置賜総合病院に利用するだろう。
⑥医療で困っていること。(診療所への希望) : 特にない。
⑦健診(検診)の受診状況
町の検診を受けている(年1回)。地区(玉庭)の公民館で行う。
⑧その他
玉庭診療所が平成18年3月で廃止になってから、川西診療所を利用。

患者さんへのインタビュー 2

1 対応者

- ①性別 男 ②年齢 82歳 ③住所(地域名) : 玉庭
④家族構成(单身等) 4人で生活(妻、息子夫婦)

2 利用状況

- ① 診療科(今回、通常) : 内科(循環器関係) 膝の痛み(整形外科)
※ 川西診療所のほかに、血液検査と泌尿器科受診のため、米沢市の三友堂病院へ2ヶ月に1回通院。
②受診頻度 : 月1回
③交通手段(状況) 自家用車で通院(妻と一緒に通院)
※妻は、松浪院生がインタビュー
④2次医療機関 : 公立置賜総合病院か米沢市立病院
⑤時間外等の対応 : 救急車で公立置賜総合病院に利用するだろう。
⑥医療で困っていること。(診療所への希望)
現在は、自家用車で通院(15分程度)しているが、将来的に運転ができなくなった場合の通院手段が心配。
⑦健診(検診)の受診状況
町の検診を受けている(年1回)。肺がん、大腸がん検査。
⑧その他
・玉庭診療所が平成18年3月で廃止になってから、川西診療所を利用。
・玉庭地区も高齢化が進み、高齢单身や高齢夫婦世帯が増えてきている。
・介護保険料も高い。将来的に介護保険施設もなかなか入れない状況と聞く。また、以前に公立置賜総合病院へ受診したときに、入院を勧められたが医療費が払えないため入院を断念したことがあった。

患者さんへのインタビュー 3

1 対応者

- ①性別 女 ②年齢 83歳 ③住所(地域名) : 玉庭
④家族構成(単身等) 1人暮らし

2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : 膝、血圧の薬を処方
②受診頻度 : 月1回
③交通手段(状況) 近所に住むいとこと共に、いとこの娘さん(農家の主婦)の自家用車に乗せてもらって来ている(所要時間15分)。デマンドタクシーを利用したことがある知り合いはあまりいない。
④2次医療機関:大きな病気をした時やひどくなった時には、公立置賜総合病院に行く(所要時間:車で20分位)。
⑤時間外等の対応:救急車を利用し公立置賜総合病院
⑥医療で困っていること。(診療所への希望):平成17年度までは、玉庭地区に有った診療所がなくなって遠くなったが、特にない。
⑦健診(検診)の受診状況
近くの地区の公民館で町の検診を受けている
⑧その他
・この辺りは、雪が多いが、去年は暖冬だったので冬の通院はそれ程負担にはならなかった。大雪になったらどうなるかわからない。
・玉庭地区には以前にあったスキー場などもなくなり、活気がなくなってしまった。以前は農業が中心の地区だったが今では後継者もいない。
・若い人がほとんど住んでおらず、自分達のように1人暮らしの老人も多い。

患者さんへのインタビュー 4

1 対応者

- ①性別 女 ②年齢 78歳 ③住所(地域名) : 玉庭
④家族構成(単身等) : 夫と息子夫婦と4人暮らし

2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : 血圧の薬を処方
②受診頻度 : 月1回
③交通手段(状況) : 毎回、自家用車で夫に運転してもらって来ており、夫も一緒に受診している(所要時間20分)。
④2次医療機関:大きな病気をした時やひどくなった時には、公立置賜総合病院に行く(所要時間:車で30分位)。
⑤時間外等の対応:時間外の場合は救急病院を受診する。
⑥医療で困っていること。(診療所への希望):公立置賜総合病院までは遠いので、もしもの時にどうなるのか心配である。また、現時点では、夫に乗せてもらって通院しているが、夫を頼れなくなったらデマンドを利用することも出来るが通院に負担を感じると思う。
⑦健診(検診)の受診状況:近くの地区の公民館で町の検診を受けている(自転車)
⑧その他
・息子が米沢に通勤しているので、息子達は米沢の病院を利用している。

患者さんへのインタビュー 5

1 対応者

- ①性別 女 ②年齢 81歳 ③住所(地域名) : 東沢
- ④家族構成(単身等) : 息子と孫と3人暮らし

2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : 足腰が痛くて、湿布の処方をお願いに外科を定期受診
- ②受診頻度 : 月1回
- ③交通手段(状況) : デマンドタクシー(所要時間10~15分)。
- ④2次医療機関 : 大きな病気をした時やひどくなった時には、米沢市の三友堂病院に行く(所要時間 : 車で20~25分位)
- ⑤時間外等の対応 :
急病の場合は救急車を利用し、公立置賜総合病院を受診する(所要時間 : 車で30分位)
- ⑥医療で困っていること。(診療所への希望) : 特にない。
- ⑦健診(検診)の受診状況 : 健診は診療所を定期受診しているので自分は受診していない。
- ⑧その他
・自分が住んでいる地区は米沢に近いほうなので、若い人は米沢に通勤している人も多い。





川西町健康福祉センター
川西町社会福祉協議会
基幹型在宅介護支援センター
訪問看護ステーション
ホームヘルプ事業所



7 飯豊町国民健康保険診療所

1 訪問の状況

- ①日 時：平成19年7月11日(水)10:30～11:45
 ②対応者：五十嵐浩太郎 所長(40歳)
 ③訪問者：山形大学大学院医学系研究科医療政策学講座 佐藤准教授、同院生 高橋、
 山形県健康福祉企画課 竹田主事

2 基本的事項

	項 目	
1	診療所の位置	飯豊町大字椿 3654-1 椿駅からから徒歩10分(バス昨年は廃止、デマンド交通) 同敷地内に介護老人保健施設(H18.5～)、町健康福祉課、健康管理センター等町の施設を集約
2	地域の状況 (人口、高齢化率、高齢単身者率、受診者の平均年齢人口等)	中津川地区を除く人口約8,200人 高齢化率31.3%(町全体) 患者は高齢者が多い。
3	診療科(実際に診ている診療科・主な疾病等)	標榜：内科、外科、小児科、皮膚科(実際は内科) 専門は消化器(胃カメラを1人/1日実施)
4	診療日時	月・火・木・金 9時00分～17時00分 水(午後は往診)9時00分～12時30分
5	スタッフの状況 (異動状況、充足状況、派遣元((社)地域医療支援機構・へき地医療支援機構等)	医師1名、看護婦3名(公立置賜病院より1名、臨時看護師2名)、医療事務1名(ニチイ学館)、一般事務1名(町健康福祉課職員)
6	運営方式 (経営状況)	町の特別会計で運営(1億3500万程度で、繰入3500万程度)
7	主な診療機器	レントゲン、内視鏡、エコー、心電図、低周波
8	外来患者数(1日)	24.5人
9	通院手段	主に自家用車、他自転車・バイク・デマンド交通、タクシー
10	周辺の医療機関	公立置賜病院、寺嶋医院(外科)、さゆりクリニック(萩生、整形、歯科)
11	周辺の福祉施設	老健施設「美の里」、福祉協議会「福祉の里めぐみ」、特老「ひめさゆり荘」
12	救急体制、夜間・時間外の診療体制	公立置賜病院「救急救命センター」へ
13	IT等の導入状況 (電子カルテ・遠隔医療)	公立置賜病院と共通電子カルテ

3 地域医療（へき地医療）の現状と課題（総論）

車で10分のところに公立置賜病院がある、ここは総合的な医療という面では対応できないが、山間部と比べ恵まれている。

4 他の機関との連携状況

①医療機関との連携（前方支援、後方支援、医療機器、紹介率、逆紹介率、地域連携パス）

- ・実質的には公立置賜病院のサテライトとして機能、紹介、外来の予約等システムとして連携している
- ・公立置賜病院に半年勤務しており、連携しやすい

②老人保健施設、特別養護老人ホーム等介護・福祉施設との連携（老一老介護等の状況）

隣接する施設の長を兼ねている

5 在宅医療、在宅療養支援診療所、療養通所介護、看取りなどの状況

- ・毎週1回、24名を6名×4地区に分けて対応
- ・看取りは月1、2名あり

6 その他

①新医療計画：9つの主要な事業（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、小児医療、救急医療、周産期医療、災害医療、へき地医療）

- ・近隣の長井市には、すべての診療科が揃っている。

②代替医、集約化、医師確保について

医師会がバックアップしてくれている。原則休業で対応。不便をかけるが、救急等は公立置賜病院で対応できるため大きな影響はない。

③診療報酬改定に対する意見

④その他（当直等の勤務環境・労働条件他）

- ・高齢者対応では、内科と整形が主なので、専門外の整形の研修により総合医としてのスキルを身に付けたい。



患者さんへのインタビュー 1

1 対応者

- ①性別 女 ②年齢 81 歳 ③住所(地域名) : 萩生
④家族構成(単身等) 息子と2人暮らし(孫が近くにいる)

2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : 血圧の薬を月1回もらっている
②受診頻度 : 月一回、(10年間)
③交通手段(状況) : 孫の車に乗せられて
④2次医療機関 : 公立置賜病院(他の病気に懸かったことないため実績なし)
⑤時間外等の対応 :
⑥医療で困っていること。(診療所への希望)
⑦健診(検診)の受診状況 : 診療所で検査しているため、それ以外は検査を受けていない。
⑧その他
・孫、ひ孫は孫の職場に近いところ(長井)に行っている。
・かかりつけ医として掛かっている人が来ている。

患者さんへのインタビュー 2

1 対応者

- ①性別 男 ②年齢 52歳 ③住所(地域名) : 椿
④家族構成(単身等) 夫婦二人

2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : 皮膚科関係(臨時)
②受診頻度 : ちょっと具合が悪くなったため、臨時的
③交通手段(状況) 自家用車
④2次医療機関 : 公立置賜総合病院
⑤時間外等の対応 : 公立置賜総合病院
⑥医療で困っていること。(診療所への希望) : 特にない。
⑦健診(検診)の受診状況 : 勤務先で毎年受けている。
⑧その他
・公立置賜総合病院で勤務する方で、医師をもっと大学・中央病院などから派遣してほしい。



8 飯豊町国民健康保険診療所付属 中津川診療所

1 訪問の状況

- ①日 時：平成19年7月25日(水)10:30～ :
- ②対応者：阿達敦彦 所長(68歳)
- ③訪問者：山形大学大学院医学系研究科医療政策学講座 佐藤准教授、同公衆衛生学講座院生 松浪、
山形県健康福祉企画課 竹田主事

2 基本的事項

	項 目	
1	診療所の位置	飯豊町大字上原622 JR 手の子駅から南西へ約17km、地区公民館、駐在所、学校(500m)、高齢者介護予防センター(旧保育所)、JA支所、郵便局に隣接
2	地域の状況 (人口、高齢化率、高齢単身者率、受診者の平均年齢人口等)	・中津川地区人口約420人 ・高齢化率31.3%(町全体)、地区約50% ・受診者の90%は高齢者
3	診療科(実際に診ている診療科・主な疾病等)	標榜：内科(高血圧症、変形性関節症)
4	診療日時	月・水・金 9時00分～12時30分
5	スタッフの状況 (異動状況、充足状況、派遣元((社)地域医療支援機構・へき地医療支援機構等)	医師1名(長井市の開業医、息子さんが主に従事)、看護婦2名(公立置賜病院より1名、臨時看護師1名)、医療事務1名(ニチイ学館)、患者搬送車運転手(町嘱託職員)
6	運営方式 (経営状況)	町の特別会計で運営(中津川単独では良好)
7	主な診療機器	レントゲン、エコー、心電図、低周波治療器、超短波治療器、高電位治療器
8	外来患者数(1日)	30人 (患者は、ほぼ固定。通院日に来ない患者(単身・高齢者)などには、電話をかけたりのなどある程度の見守りも行っている様子。)
9	通院手段	へき地患者輸送車(11の地区を2週間に1回の割合で回れるよう割り振り)、自家用車、デマンド交通～電話予約により家の前まで。
10	周辺の医療機関	寺嶋医院(外科)、飯豊町国保診療所、さゆりクリニック(萩生、整形、歯科)
11	周辺の福祉施設	老健施設「美の里」、福祉協議会「福祉の里めざみ」、徳老「ひめさゆり荘」 高齢者介護予防センター
12	救急体制、夜間・時間外の診療体制	公立置賜総合病院「救急救命センター」へ(約27km)
13	IT等の導入状況 (電子カルテ・遠隔医療)	公立置賜病院と共通電子カルテ(現在は検査結果の閲覧のみ)レセプトは電算処理(H19.10～)

3 地域医療（へき地医療）の現状と課題（総論）

地域の老人は大変健康であり、現状の2週間に一度の投薬で十分。現在、高齢化率50%、10年後の地域の状況、後任者が心配。

4 他の機関との連携状況

①医療機関との連携（前方支援、後方支援、医療機器、紹介率、逆紹介率、地域連携パス）

月に4、5人、公立置賜総合病院へ紹介している。

中津川小中学校（前項で27人程度）の校医もやっており、かぜなどで、子供たちもくるが、耳目などは長井に行っている。長井市内には全科揃っている。

②老人保健施設、特別養護老人ホーム等介護・福祉施設との連携（老一老介護等の状況）

施設への行き来はあまりない。デイサービスを受けに椿まで言っている人も数人。みんな元気

5 在宅医療、在宅療養支援診療所、療養通所介護、看取りなどの状況

たまにある程度。

特老へ週一回行っているのので、看取りはそこで行っている程度。

6 その他

①新医療計画：9つの主要な事業（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、小児医療、救急医療、周産期医療、災害医療、へき地医療）

②代替医、集約化、医師確保について

③診療報酬改定に対する意見

④その他（当直等の勤務環境・労働条件他）

- ・ 保育所が廃止、職場がないため、結婚すると多くは町へ出て行く。
- ・ 県道沿い以外の地域は、人口の減少が激しい。
- ・ Iターンはここ10年で5名



患者さんへのインタビュー 1

1 対応者

- ①性別 女 ②年齢 70歳 ③住所(地域名) : 宇津沢
- ④家族構成(単身等) 2人

2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : 高血圧
- ②受診頻度 : 2週間に一度
- ③交通手段(状況) : 町患者搬送車
- ④2次医療機関 :
- ⑤時間外等の対応 :
- ⑥医療で困っていること。(診療所への希望) : なし
- ⑦健診(検診)の受診状況 : 町のミニドックを診療所で受診
- ⑧その他 : 血圧のほかは、病気になったことがないため、診療所で十分。

患者さんへのインタビュー 2

1 対応者

- ①性別 男 ②年齢 70歳 ③住所(地域名) : 宇津沢(Iターン)
- ④家族構成(単身等) 単身(10年目)

2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : 高血圧
- ②受診頻度 : 2週間に一度
- ③交通手段(状況) : 町患者搬送車
- ④2次医療機関 :
- ⑤時間外等の対応 :
- ⑥医療で困っていること。(診療所への希望) : なし
- ⑦健診(検診)の受診状況 : 町のミニドックを診療所で受診
- ⑧その他 : 血圧のほかは、病気になったことがないため、診療所で十分。

患者さんへのインタビュー 3

1 対応者

- ①性別 女 ②年齢 75歳 ③住所(地域名) : 宇津沢
- ④家族構成(単身等) 夫婦(子どもらは、外へ出て行った)

2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : 内科(血圧関係、通常)
- ②受診頻度 : 週2回
- ③交通手段(状況) : 送迎車を利用
- ④2次医療機関 : 公立置賜総合病院
- ⑤時間外等の対応 : 利用したことは無いが救急車だろう。
- ⑥医療で困っていること。(診療所への希望) : 大変助かっている。
- ⑦健診(検診)の受診状況 : 町の検診が年1回ある。
- ⑧その他 : 特になし。

※ 全体的な印象として、血圧などの慢性的なもの以外は、健康的な患者が多い。

患者さんへのインタビュー 4

1 対応者

- ①性別 女 ②年齢 76歳 ③住所(地域名) : 宇津沢
- ④家族構成(単身等) 夫(75)と2人暮らし

2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : 血圧のコントロールのため内服薬を服薬しており、処方をもらいに定期受診している
- ②受診頻度 : 2週間に一度
- ③交通手段(状況) : 町患者搬送車(所要時間10分)
- ④2次医療機関 : 大きな病気をした時やひどくなった時には、紹介状を書いてもらい、自家用車で公立置賜総合病院に行く(所要時間:車で40分位)。
- ⑤時間外等の対応 :
時間外の場合を含め、急病の場合も救急車を利用し、公立置賜総合病院を受診する。
- ⑥医療で困っていること。(診療所への希望) : 診療所までの送迎があるので助かっている。
- ⑦健診(検診)の受診状況 :
健診は診療所向かいの介護予防センターが会場なのでそこで受診している。
自分は、今年5月に受診している。健診会場までは自家用車や近所の人と乗り合いで来る。
- ⑧その他
 - ・風邪などでここの診療所に来る人もいるが、自分は定期受診時以外に診療所に来ることは余り無い。
 - ・この辺りは、雪が多いが、道路は除雪してくれるので冬の移動はそれ程負担にならない。

患者さんへのインタビュー 5

1 対応者

- ①性別 女 ②年齢 74歳 ③住所(地域名) : 宇津沢
- ④家族構成(単身等) : 夫(74)と2人暮らし

2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : 血圧のコントロールのため内服薬を服薬しており、処方をもらいに定期受診している。定期受診時以外には風邪などの場合にも診療所に来る。
- ②受診頻度 : 週2回
- ③交通手段(状況) : 送迎車を利用(所要時間10分)
- ④2次医療機関 : 大きな病気をした時やひどくなった時には、紹介状を書いてもらい、自家用車で公立置賜総合病院に行く。(所要時間:車で40分位)
- ⑤時間外等の対応 :
時間外の場合を含め、急病の場合も救急車を利用し、公立置賜総合病院を受診する。
- ⑥医療で困っていること。(診療所への希望) : 診療所までの送迎があるので助かっている。
- ⑦健診(検診)の受診状況 : 健診は介護予防センターで受診。今年5月に受診。自家用車で来る。
- ⑧その他 :
 - ・若い世代は主要沿線沿いには住んでいるが、自分が住んでいる地区(宇津沢地区)には少ない。
 - ・若い人は町内や長井・川西に通勤している人が多く、移住する者も少なくない(自分の子ども達は職場の近くに別居している)。

9 鶴岡市国民健康保険大網診療所

1 訪問の状況

- ①日 時：平成19年6月27日（水）15：00～16：00
 ②対応者：佐久間和弘 所長（38歳）
 ③訪問者：山形大学大学院医学系研究科医療政策学講座 佐藤准教授、同公衆衛生学講座院生 松浪
 山形県健康福祉企画課 竹田主事

2 基本的事項

	項目		備考
1	診療所の位置	鶴岡市大網字興屋69-1（旧朝日村） 小学校、郵便局等隣接	小学校児童24人 保育園園児8人
2	地域の状況 （人口、高齢化率、高齢 単身者率、受診者の平均 年齢人口等）	朝日地区5,314人、高齢化率32.0%、（大網地区：約 540人）、起伏が大きく、積雪も多い地域 患者には、高齢者だけでなく子どもも比較的多い。 （田麦野地区からもまれにくる）	隣接保育員、小学校の 校医
3	診療科（実際に診ている 診療科・主な疾病等）	内科・小児科	リハビリは鶴岡へ
4	診療日時	月・水・金 13時30分～16時30分	
5	スタッフの状況 （異動状況、充足状況、 派遣元（社）地域医療支 援機構・へき地医療支援 機構等）	医師1名 看護師2名（嘱託） 事務職員1名（住民票の発行なども行っている）。 ※人事異動はあまりなく、看護師も30年近く勤務	
6	運営方式 （経営状況）		
7	主な診療機器	腹部エコー、レントゲンもあったが需要が無いため廃 止。	
8	外来患者数（1日）	20人	
9	通院手段	車、徒歩、バス（1日数本） （送迎バス等はない上、地域のバスの運行本数は少な く時間が限られている状況）	
10	周辺の医療機関	（最短の診療所は）旧朝日村に2箇所。櫛引町に民間 医院5箇所	
11	周辺の福祉施設	熊出地区（国道112号線沿の落合の隣）に特別養護 老人ホーム等あり。	
12	救急体制、夜間・時 間外の診療体制	夜間は、自家用車や、救急車対応。	
13	IT等の導入状況 （電子カルテ・遠隔医療）	なし	

- 3 地域医療（へき地医療）の現状と課題（総論）
 - ・救急や重篤患者への地域中核病院のバックアップ、連携が課題
 - ・通院可能な交通手段がない（現在は、となり近所の車で対応）

- 4 他の機関との連携状況
 - ①医療機関との連携（前方支援、後方支援、医療機器、紹介率、逆紹介率、地域連携パス）
 - ・紹介数の正確な数字は不明だが、比較的多い。（紹介率1割、逆紹介率1割程度）
 - ・紹介先は、鶴岡市立荘内病院。日本海病院もある。
 - ※荘内病院も、患者があふれていることもある。
 - ②老人保健施設、特別養護老人ホーム等介護・福祉施設との連携（老一老介護等の状況）
 - ・受け持ちの患者が入所している場合など、施設から呼び出しがある。
 - ・閉じこもり気味の高齢者など、外へ連れ出したほうが良いと考える。
 - ・町の施設の主治医になっており、3ヶ月に1度往診、活用を呼びかけている。

- 5 在宅医療、在宅療養支援診療所、療養通所介護、看取りなどの状況
 - ・往診あり（現在寝たきりはいない。）
 - ・看取りは年に数例

- 6 その他
 - ①新医療計画：9つの主要な事業（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、小児医療、救急医療、周産期医療、災害医療、へき地医療）
 - ②代替医、集約化、医師確保について

医師の不足は実感しているが、一概に語れない難しい問題と認識している。
 - ③診療報酬改定に対する意見
 - ④その他（当直等の勤務環境・労働条件他）



患者さんへのインタビュー 1

1 対応者

- ①性別 男 ②年齢 77歳 ③住所(地域名) : 大網
④家族構成(単身等) : 妻・息子夫婦・孫2人と6人暮らし(3世帯同居)

2 利用状況

①診療科(今回、通常) :

頭痛があり、診療所の先生の紹介で鶴岡の個人病院(小真木原クリニック・脳神経外科)へ検査受診したが、異常なかったため診療所でフォローとなり、今回は再来である。風邪などの時にもこの診療所に来ており、かかりつけである。

②受診頻度: 週に3回ほど受診

③交通手段(状況) : 自家用車を自分で運転して毎回受診している。

④2次医療機関:

大きな病気をした時やひどくなった時は、鶴岡の荘内病院などに行く。

⑤時間外等の対応: 時間外の場合を含め、急病の場合は救急車を利用する。

⑥医療で困っていること。(診療所への希望) : 鶴岡までの通院は遠いので大変である。

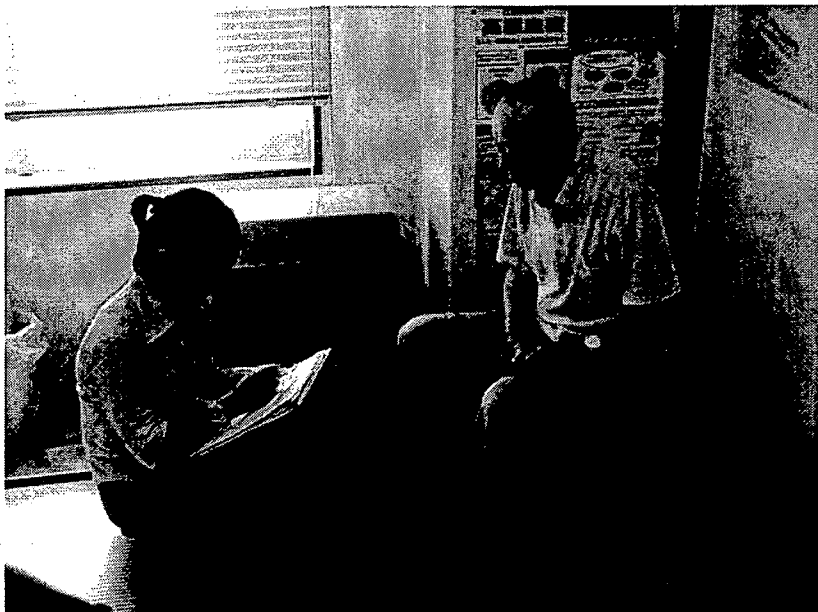
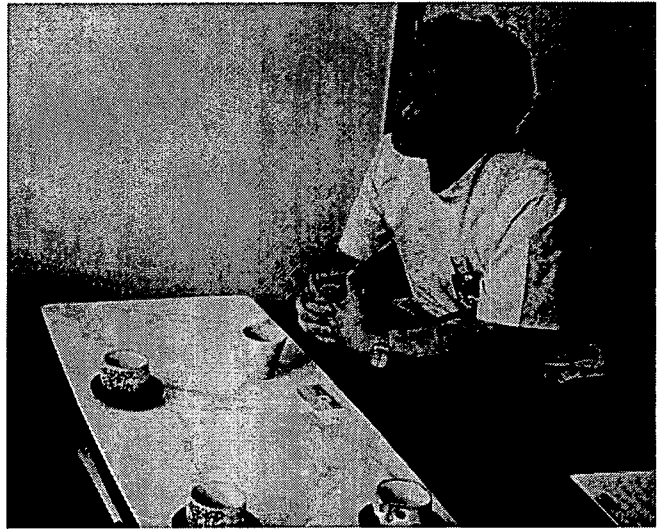
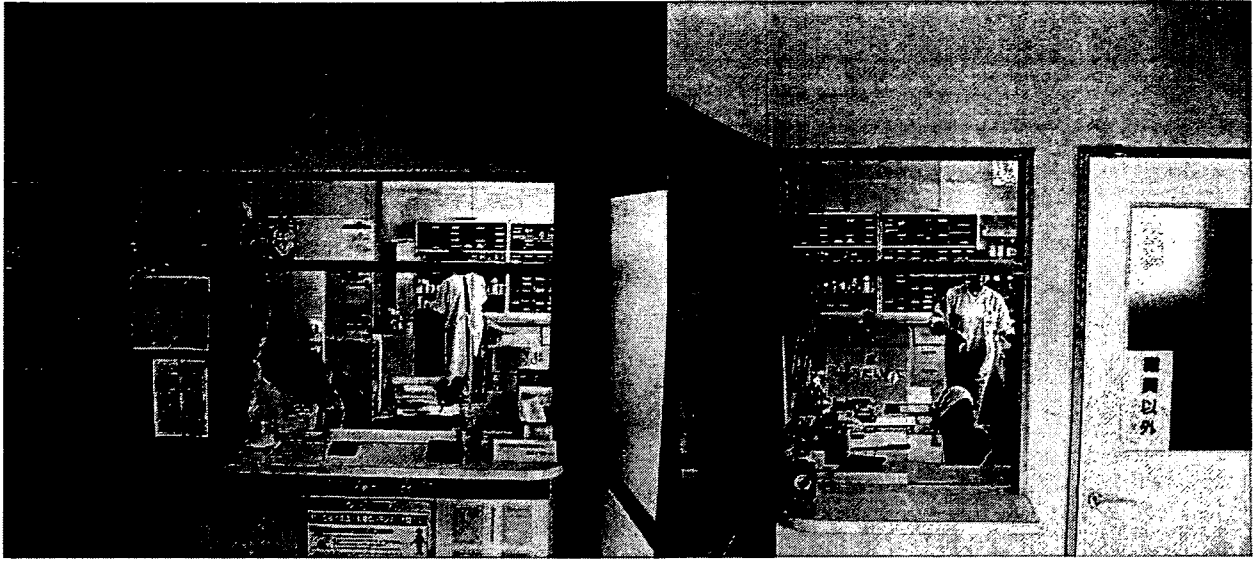
⑦健診(検診)の受診状況:

健診は近くの公民館まで健診車が来るのでそこで受診している。

⑧その他:

- ・若い人達は鶴岡の病院を受診することが多い。小児は予防接種や風邪などでこの診療所に来る人もいるが、他には、鶴岡にある病院に車で行く人もいる。
- ・この辺りは、かつては参拝者でにぎわったが、現在は過疎が進行して、郵便局や店が無くなるなど不便になった。
- ・鶴岡に通勤している人が多いが、特に冬期間は通勤時間が掛かり、除雪の負担もあるなど困難が多く、鶴岡へ移住する者も少なくない。





10 鶴岡市国民健康保険上田沢診療所

1 訪問の状況

- ①日 時：平成19年6月27日（水）13：00～14：00
 ②対応者：小野寺俊直 所長（69歳）
 ③訪問者：山形大学大学院医学系研究科医療政策額講座 佐藤准教授、同公衆衛生学講座院生松浪
 山形県健康福祉企画課 竹田主事

2 基本的事項

	項目		備考
1	診療所の位置	鶴岡市上田沢字下中島25（旧朝日村） 小学校、郵便局から約500m。上田沢地区のほぼ中心部に位置。役場の出先を兼ねる	
2	地域の状況 （人口、高齢化率、高齢単身者率、受診者の平均年齢人口等）	朝日地区5,314人、高齢化率32.0% （大泉地区：697人、高齢化率35.0%、高齢単身者率7.4%、老人世帯率8%、寝たきり老人8人、認知症老人17人（2.4%）	隣接保育員、小学校の校医
3	診療科（実際に診ている診療科・主な疾病等）	内科・小児科（標榜）（高血圧、腰、膝の痛みなど標榜科以外も診察している。）	リハビリは鶴岡へ
4	診療日時	月・水・金 13時30分～16時30分	
5	スタッフの状況 （異動状況、充足状況、派遣元（社）地域医療支援機構・へき地医療支援機構等）	医師1名、看護師1名（市の職員）、事務2（役場の出先と兼務臨時、1名は臨時で、月、水、金のみ勤務）	
6	運営方式 （経営状況）	2,100万円の赤字（調整交付金438万円、残りは、一般会計から持ち出し）S55～？ 単年度2000万の赤字	
7	主な診療機器	マクター、マイクロタイザー。 （レントゲンも昔はあったが需要がなく、処分）	
8	外来患者数（1日）	10人	
9	通院手段	患者送迎バス（更に約8km山間部に入った大鳥診療所の廃止とともに設置）、自家用車、徒歩	
10	周辺の医療機関	約12kmはなれた112号近くの落合に小野寺医院（所長が開院）他1の診療所あり。	
11	周辺の福祉施設	落合に特老、熊出にデイサービス施設あり	
12	救急体制、夜間・時間外の診療体制	落合の医院、鶴岡荘内病院、日本海病院	
13	IT等の導入状況 （電子カルテ・遠隔医療）	なし	

3 地域医療（へき地医療）の現状と課題（総論）

- ・とくに、医療面で課題というものは無い。
- ・最近、地区に就労先が無く生計維持困難になっている世帯が多いと思われる。
- ・国保の1部負担金が払えないということもあった。医療費を気にして受診しない人もいる。

4 他の機関との連携状況

①医療機関との連携（前方支援、後方支援、医療機器、紹介率、逆紹介率、地域連携パス）

- ・荘内病院に勤務していたこともあり、荘内病院に紹介することが多い。（年間数人）
- ・救急車等で搬送

②老人保健施設、特別養護老人ホーム等介護・福祉施設との連携（老一老介護等の状況）

- ・週に2回特別養護老人ホームへ行っている
- ・デイサービス（熊出）から連絡がきて、対応したりなどしている。

5 在宅医療、在宅療養支援診療所、療養通所介護、看取りなどの状況

- ・往診（月に10件程度）。
- ・大鳥を含めて4km圏内。
- ・看取りも年に数件ある。

6 その他

①新医療計画：9つの主要な事業（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、小児医療、救急医療、周産期医療、災害医療、へき地医療）

特になし

②代替医、集約化、医師確保について

特になし

③診療報酬改定に対する意見

特になし

④その他（当直等の勤務環境・労働条件他）

特になし

